

大企業との連携による中小企業の成長戦略
～ベンチャーキャピタルの視点から見た我が国のオープンイノベーション～

2016年3月4日

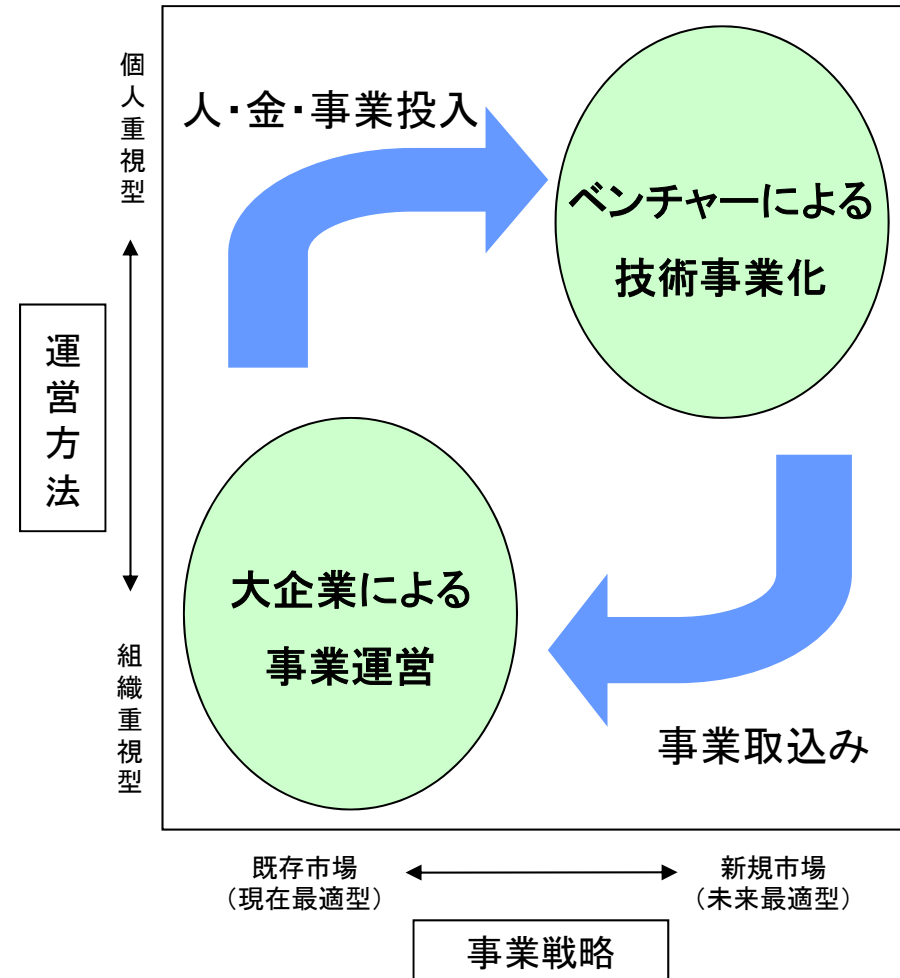
イノベーション・エンジン株式会社

代表取締役社長 佐野 睦典

大企業とベンチャー企業の特徴

	大企業	ベンチャー企業
行動原理	ローリスクミドルリターン	ハイリスクハイリターン
事業戦略	大規模事業を中核に据える。現在最適型になりがち	ニッチ事業を中核に据える。未来最適型を狙う
ブランド信用力	高い・厚い	低い
販路生産力	広い・大きい	小さい
財務力	安定	不安定
知的資産	大きい	特定分野に集中
開発力	大きい(活力が低下気味)	特定分野に大きい
経営コスト	高い	低い
意思決定	遅い	早い
人的活力	全般的には低い ただ、大きな舞台での活躍の場	高い ただ、小さな市場や下請化懸念

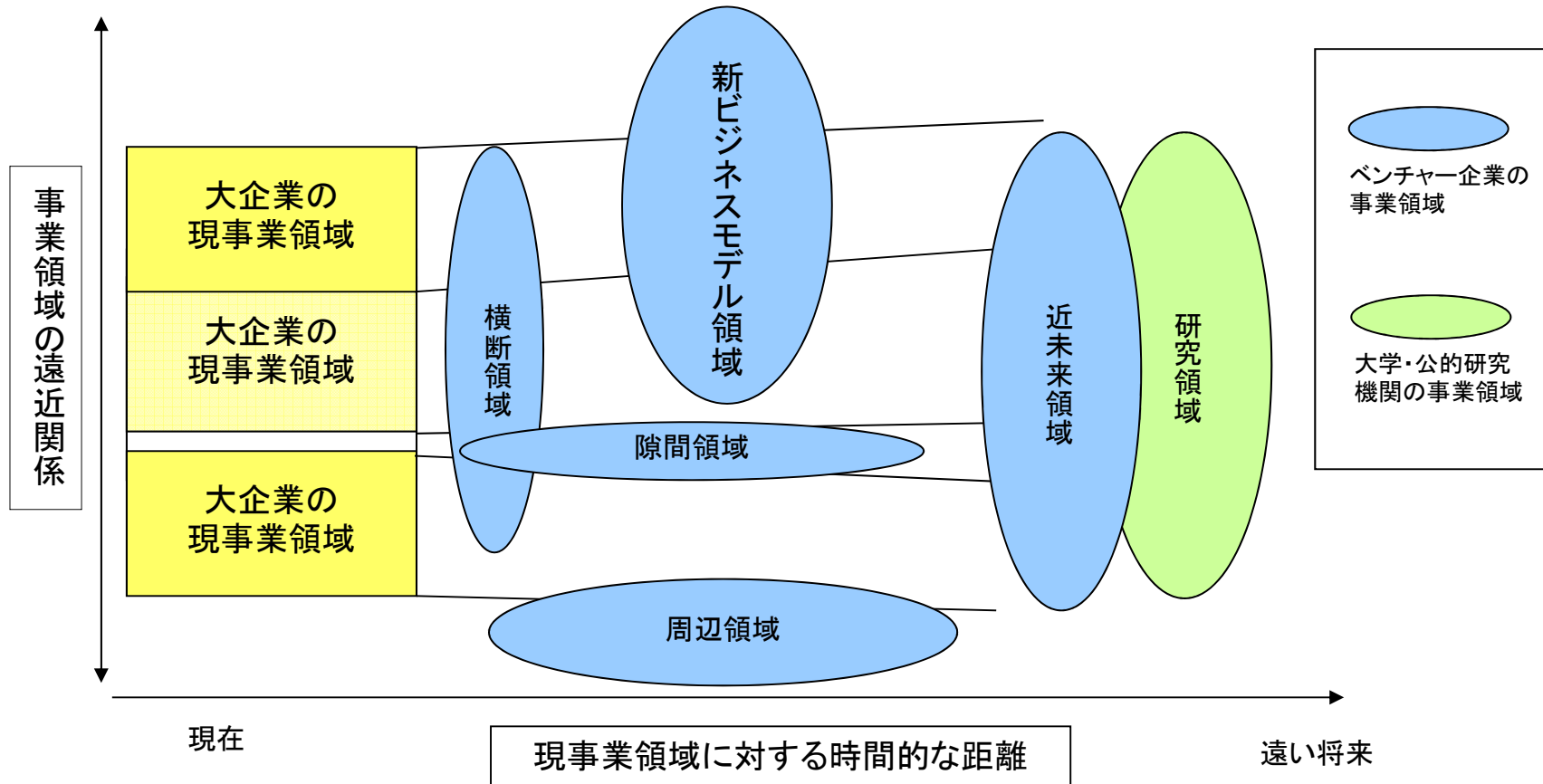
大企業とベンチャー企業の役割分担



ベンチャー企業の存在意義

- ・大企業は、現事業領域には強味を持つ。一方、隙間領域、横断領域、周辺領域、近未来領域、新ビジネスモデル領域については、現事業領域との軋轢で有望であっても行いにくい場合が多い。
- ・これらの領域への取組みについては、ベンチャー企業との関わりを検討することが望まれる。特に、新ビジネスモデル領域については、現事業領域を根底から覆す可能性のあるものであり、根本的な対応が求められる。
- ・研究領域は、時間的な遠さから取り込みにくい。これらは、大学・公的研究機関が担うべき領域である。

大企業とベンチャー企業の事業領域の補完関係



第一次産業革命	18C後半～	蒸気機関・石炭・軽工業 (工場制機械工業)
第二次産業革命	19C後半～	内燃機関・石油・重工業 (科学的管理手法)
第三次産業革命	20C中盤～	通信・コンピュータ (インフォメーションの高速大量伝送・ 処理)
第四次産業革命	21C初盤～	IOT・AI・ロボット (大量インフォメーション処理に基づく インテリジェンスの自動生成・増殖)

頭脳の解明

インテリジェンスの自動生成・増殖

・ IOT・AI・ロボット

生体ネットワークによる健康管理

・ 生体情報の収集と健康サポート

生命科学による健康寿命拡大

- ・ DNA診断・創薬
- ・ 抗体医薬
- ・ 免疫医療
- ・ 再生医療

人体の解明

オープンイノベーションを必要とする産業領域の増大

➤ ネットワークのインテリジェンス化

- ・ EC(商品からサービスへの拡大)
- ・ 情報提供・情報検索・アグリゲーション・キュレーション
- ・ 個別対応問題解決および個別対応広告(アドネットワーク)
- ・ 個人および法人向け業務処理

➤ 製造業のインテリジェンス化(内部・外部向け)

- ・ IOT
- ・ AI
- ・ ロボット
- ・ アイデア型製造業

➤ 人間の解明と産業化

- ・ 遺伝子診断・創薬
- ・ 抗体医薬・免疫医療
- ・ 再生医療
- ・ 生体ネットワークによる健康管理

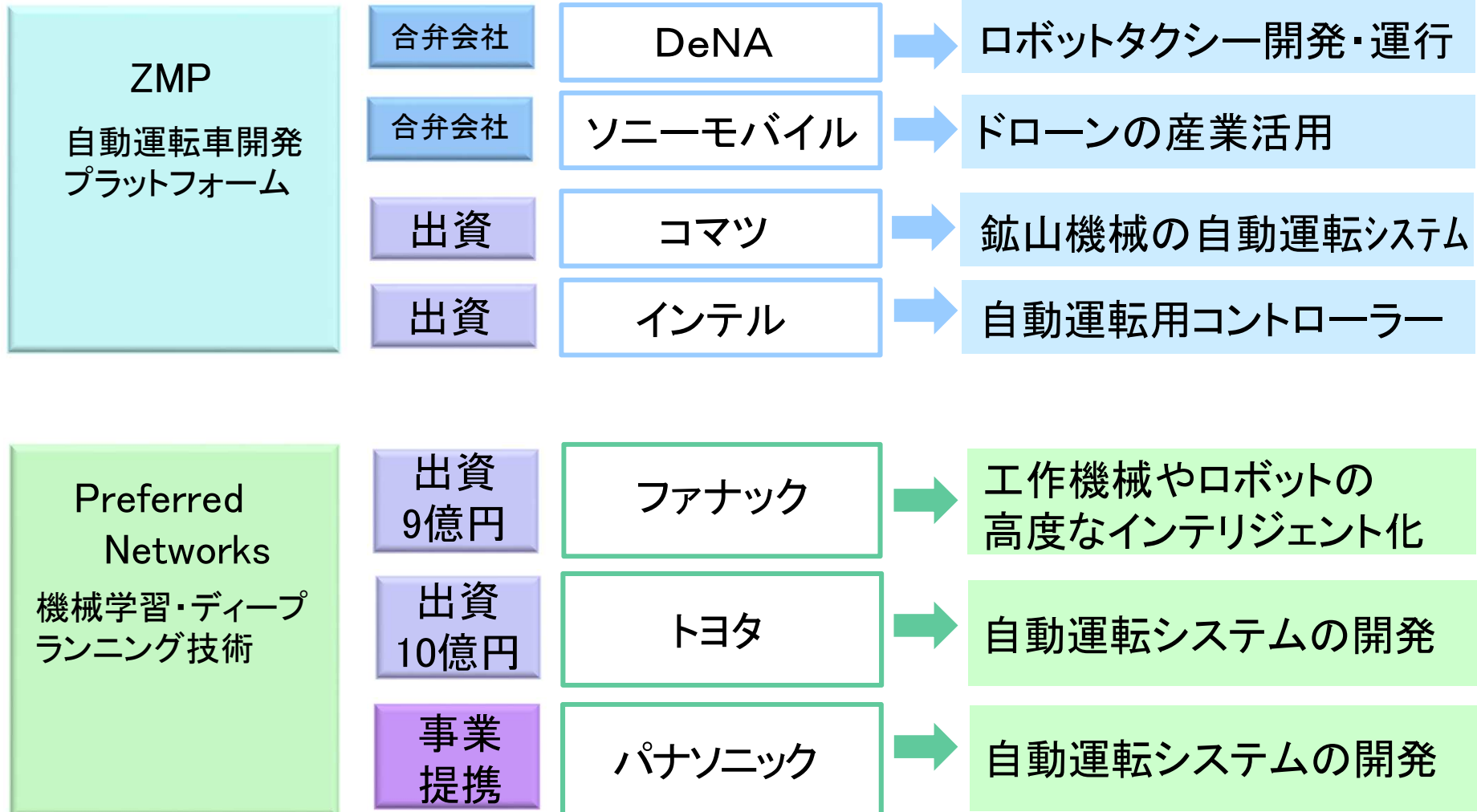
➤ 製造業の新領域

- ・ 先端材料
- ・ 新製造方式
- ・ 宇宙・環境対応など

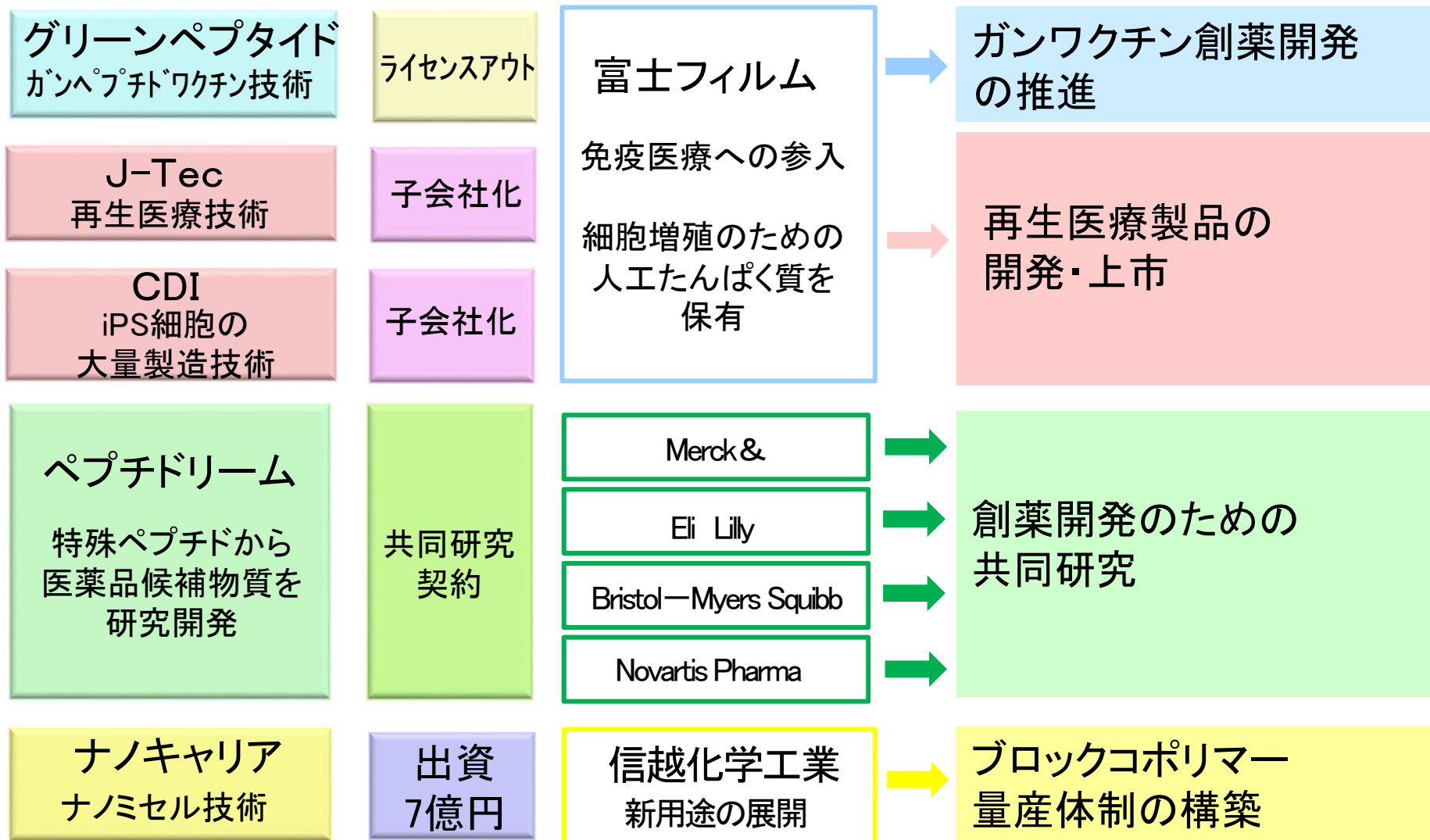
ネットワークのインテリジェンス化



製造業のインテリジェンス化



人間の解明と産業化



製造業の新領域

